

ヒューマンハーバー



3月号 協同組合ハイコープ組合報
Vol.201 2012年(平成24年)3月27日(火)発行



◆2月8日 本部主催
新春特別講演「甦れ!食・健康・地球環境」
講師 琉球大学名誉教授 比嘉 照夫 先生

CONTENTS

巻頭「厚生年金基金の破綻」	1
厚生年金でなぜ穴埋め	2
関係者の責任を明確に!	2
本部事業報告 EMの開発者比嘉教授特別講演	2
〈レポート〉講演会「甦れ!食・健康・地球環境」を聴いて	3
長野地区本部事業報告	4
メンバー企業訪問 (株)イツミ	4
太陽光活用農業施設の視察	4
〈レポート〉光変換光合成促進農法を受講して	4
環境資機材開発の夢	5
写真で綴る関連事業・スケジュール	6
PETIT情報・編集後記	6

厚生年金基金の破綻

A I J投資顧問による年金資産の消失問題で、厚生年金基金が国から預かって運用している年金の積立金に、最大で1,100億円穴が空いていることが判明しました。本組合ハイコープが異業種交流組織に改組してまもない頃、「厚生年金基金制度」を組合事業として取り扱わないかと関係方面から働きかけがありました。

組合員企業の従業員の年金の拡充、また組合には取扱い事務手数料も入り共同事業の充実になると何回か勧誘されました。重要事項として委員会を開き、「この制度は本当にメンバー企業のためになるのか、長期的にみて経済成長が持続し、企業も発展しつづけることができるのか、メンバー各企業の収益を上げた度合いで、従業員に給与、賞与で還元することのほうがベターではないか。年金関連団体が役人の天下り先となり、彼らは数字を右から左へ動かすだけで、高額報酬や手数料が入るが、組合にはリスクが多く微々たる手数料ではメリットもないのではないか」と予測、この年金基金をお断わりしました。当時の組合役員、担当委員の見解は、まさに今日の厚生年金基金の問題点を洞察していました。

あのときこの制度を組合事業として導入しなくてよかったなあと、当時の関係役員、委員の皆様へ感謝しつつしみじみ思うこの頃です。

しかし、この問題、組合として、またメンバー企業にあっても被害もなくてよかった、と他人事ではいられない事態となってきました。